

## 地域密着型サービス自己評価票

- ・ 指定小規模多機能型居宅介護  
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- ・ 指定認知症対応型共同生活介護  
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 12 月 10 日
事業所名	グループホームチアフル花明かり・友明かり 花
事業所番号	2372201380
記入者名	職名 氏名 瀬瀬 美千代
連絡先電話番号	0 5 8 6 — 8 6 — 8 5 1 2

(様式1)

## 自己評価票

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	チアフル理念の柱は「自分らしく誇りを持ちながら自分で出来る喜びを感じていただく」事です。個々の生活に合わせて理念に基づいて暮らせるよう努めている。一人一人がここにいてよかったと思っていただくことが大切だと思っています。地域の方々にも児童館、展覧会などに声をかけていただけるようにコミュニケーションに努めている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に付く場所（スタッフルーム、キッチン）に理念を張っており理念を通して利用者さまの日々の生活に取り組んでいる。朝必ず目を通すように努めている。理念に取り入れてある内容に沿い利用者様に対して敬う気持ちで接するように取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念の中に地域に関する事が入っているが地域の人にとれぐらい理解されているのかは分からない。家族の方とは訪問されるたびに近況を知らせよう努めている。毎月チアフル新聞を発行し近況を知らせるとともに近況を知らせることに重点を置いている。家族会も年1回行っている。	○	家族の方たちには十分理解されていると思われるが、地域の方々には十分理解されているかは見えていないので今後も引き続き取り組んでいきたい。チアフル内にはさりげなく理念が分かるように置いてあるが地域に広げるためにはどのようにするのかは課題である。
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の挨拶には全員で取り組み気軽に声をかけ合う状態が日常となっている。毎年夏祭りなどの行事には声かけしたくさんの方に参加していただいている。日々の散歩、ピクニックなどでも気軽に挨拶したり、されたりしている。		
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のクリスマス会、敬老会などにも声をかけていただき利用者様の作品を出展させていただいたり児童館に呼ばれたり交流を図っている。	○	G Hという所は一般家庭の生活と変わらない事を地域の人達に分かっていただくよう努めているがもっと沢山の人達にチアフルの事を知って欲しいと考えている。自分たちからの発信も考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	小学校に出かけ高齢者の特徴の課外授業を開いたときに認知症高齢者の特徴とGHの役割を知ってもらおうにした。児童館に出かけていくときはご利用者の得意な面を見ていただけるように勤めきっかけ作りを狙っている。しかしまだまだ十分とはいえないのが現状である。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員での評価に努めている。新人教育の指針として活用している。	○	グループホームの使命を職員間で考えるととてもよい資料だと思う。今後も日々のケアの指針として活用していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	年4回ご家族、福祉課、老人会の地域の人達をきて頂き利用者様の日ごろの様子、活動を報告している。意見を話し合い改善に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の人、福祉の方、市町村の人達と事業所の悩み利用者様のサービスに対する向上に取り組んでいる。市町村担当者の方達と意見交換をしサービスの向上に努めているが意見交換の場が少ないように思える。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	個々の利用者様、あるいはご家族から相談を受ける機会があるので成年後見制度や地域権利擁護を知らせるように努めている。しかしながら職員全体が理解しているわけではないので勉強会の必要を感じている。	○	介護職として学んでいきたい。知っている方に教えていただきたい。職員は理解していない人も見えるので学ぶように努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	色々な虐待は全スタッフは理解している。見過ごさないよう管理者は防止に努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	個々に話を聞きだして悩み、不安を取り除いているが言えない人も見えるのもっと個々に時間を作り聞くように努めたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	○	運営面については職員に話されても分からない部分も出てくると思いますし、そのような余裕な時間が持てないと思う。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者様の生活環境を変えないよう時間を十分とりコミュニケーションに努めている。異動の時はそのユニットが把握できる職員が1名～2名は残るようにしている。異動は最小限だが離職は分からない。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、講義に参加するように努めている。先輩職員が新米職員に利用者様の知識、対応の仕方などを教え教育している。一日の生活の内容、困ったこと、不安な事を記載しその問題について話あっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のGH、特養など訪問したり来訪していただいたりしながら、相互の意見交換を進めサービスの質の向上に努めている。講習、勉強会に参加したときは研修報告書を各ユニットに回し研修内容を法人全体に知らせて質の向上に取り組んでいる。	○	出来るだけ他のGHなど見学に行き良い所を吸収し自分たちのGHに取り入れて行きたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	2ヶ月に一度各ユニット毎食事会がある。各ユニットで昼食を取りながら声をかけていただいたり、職員が相談するとアドバイスをして下さる。	○	食事会も良いが時には日帰りですどこか行くか、旅行、スポーツなどに取組んでいただきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況の把握は定かではないが職員が向上心を持って働けるように配慮して下さる。いつも優しく言葉をかけてもらい色々な指示をしていただいている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	アセスメントシートを利用して笑顔と落ち着いた対応で利用者様の性格、心身の状態をつかむように努めている。困っていることや不安なことを丁寧に聞き出すようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が何を求めているか聞きだし出来る限り管理者と相談しながら支援するように取り組んでいる。	○  今以上にご家族との信頼関係を深めていきたいと思っています。しかしながら信頼関係が不十分なご家族様にはよりいっそう丁寧なお付き合いをしていこうと考えています。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時に家族が求めている支援が何であるのか十分見極めるようにしている。最良の場がグループホームでないと判断した場合は、他のサービスを紹介している。	
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅から離れる方にとっては特に不安なので、時間があればお茶を飲みに来て頂いたりレクリエーションに参加する機会を設け、他のご利用者やスタッフとなじみができるように努めている。	○  場の雰囲気に早く慣れていただき楽しい生活を送れるよう支援していきたい。他の利用者さんとも溶け込んでいただくよう職員同士話あって行きたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護職の立場ではなく家族の一員として接し信頼されるように努めている。何事も教えていただいた、人生の先輩で何事も感謝の気持ちを大切にすよう心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を支えているのはスタッフばかりではなく“家族と共に”と考えているので嬉しいとき、悲しいとき、困ったとき・・・共に考え共に喜んでいるのが日常。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつも気軽に面会、訪問が出来るよう話しかけたり笑顔に努めている。あまり面会にこれない家族の方々にも行事には参加、協力していただくように努め本人、家族が良い関係になれるよう取り組んでいる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ご本人がよく行かれた場所に行ったり友人などが気軽にこられたり出来るように職員が把握し出来るだけホームでの生活を楽しく出来るように努める。	○	ご本人様の馴染みのある方やご近所がこれるようこれからも支援したい。時には手紙をだして友人の方から手紙がもらえるように支援したい。
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格他の利用者さんの関係を把握し利用者さんが孤立しないようにゲーム、体操など参加していただくように努めている。孤立しそうな利用者さんにはスタッフが間に入り利用者同士が仲良く生活できるよう努めている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	いつでも気軽に「遊びに来てください。近くに見えたらよって下さい。」など声をかけるように職員に言っている。	○	これからも退所される方々に声をかけていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人暮らしやすいように支援している。希望、要望がある時は話し合い検討したり実施していくように努めている。意思疎通が困難な方にはゆっくり時間をかけて話を聞いて意向に副える様に支援している。	○  希望、意向に戸惑うときがあるのでご家族さまと相談しながら支援するよう努めている。
34	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時点で生活暦、経歴などに目を通して把握してサービスに努めている。家族の方に尋ねたり生活記録にはさんである資料をを常に見るように努めている。	
35	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活を注意深く観察したり、話をきいたりして力を発揮できるように努めている。様々なレクリエーション活動を通じご利用者の出来る事、出来ない事の観察に努めている。	
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングの中で気付いたこと、出来る事出来ない事など話し合い、介護計画書を作成している。仮の介護計画書をご家族様に見ていただき家族の意見も取り入れている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員に評価の欄に日常の生活の様子、変化などを見直し事項を記入したり、ご家族様の要望、意見を聞き作成の見直しに取り組んでいる。	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきノートをつくりそこにその時の様子で変化があった場合記入するようにしている。個別記録にも残すようにしている。	○	記録表には誰が見ても、詳しく、分かりやすく書くように常に心がけている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけ要望に沿えるように努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運動会、習字、手芸などにボランティアの方々に来ていただいたり児童館に呼ばれている。地域の方々の関係を保ちながら職員の向上の為勉強会、講習などにも協力していただいている。逆にボランティアの要望があれば積極的に受け入れるように努めている。	○	習字、手芸など利用者が「やりたい事」などを聞き出し協力しながら支援している。今後もっとボランティアの方を増やし活動的に過ごしていけるよう支援していきたい。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	施設の移動を考えなくてはならないことが起こると他のケアマネジャーやソーシャルワーカーと連絡を取り合い、その人に会った次の施設を考えるように努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	3ヶ月毎に運営会議など支援センターの方達とホームでの暮らし、活動を報告し今後どのようにしたら良いかなどを話あっている。権利擁護については家族と本人の意向に沿えるよう社会福祉協議会と協働して考えている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけご家族様、利用者様の意向を取り入れかかりつけの病院など家族と一緒に受診していただく。又家族様がこちらに任せますと言われた利用者様にはホームDrに診ていただくように取り組んでいる。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師は見えますが職員が相談できる所まではいたってない。	○	専門家、認知症に詳しい病院、Drとも関係を築いていきたい。職員がすぐ相談できるよう取り組んでいきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は職員のなかに居るので心強い。また、訪問看護ステーションからも月に1回のペースで血圧、脈はくなど測り、日々のケアでの気づきを元に利用者さまの健康管理について支援している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院ができるように病院関係者とは密に連絡を取るよう努めている。今の状態、今後どのようなケアが必要かなど尋ね退院後のケアにも生かすよう努めている。	○	認知症のため早期退院を勧められる場合もあるが、病氣治癒まで安心して療養できるよう病院関係者に働きかけたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を設けてあるので時期を見計らってご家族にどのようにされるか、したら良いかなどを話し合ったり、職員の間でもどのように対応するか話あっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の対応はご家族さまの意向を聞き対応できるように努めているができない場合も出てくるので医療関係者と相談しできる限り支援していきたい。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族、ご本人とも良く話し合い利用者様にとって一番良い所を選んでいただいている。本人家族様が不安、動揺を最小限に治めるように努めアセスメントシートなど日頃の状況の様子分かるように必要な情報交換に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーを損ねる対応はしないように常に頭に置きケアに努めている。記録などの記載に対してはイニシャルを書くようにしている。	○	プライバシーの尊重には日々心がけてはいるが、耳の遠い方には排泄えの声かけも大きくなりがちなどで十分配慮していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の希望を聞きできる事は本人と話し合い決めている。希望を口に出せない方はアセスメントシートの中から探し出したり、ご家族との面談からヒントを得るようにしている。また、何気ない会話からヒントを見つけることもある。		
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を支援していくよう努めているがやむ得ない状況（遠足、ランチなど外出、行事など）になった時はその人のペースになっていない時もある。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回移動美容室の車がきて頂きカットしていただいている。ご自分で身だしなみが出来ない利用者様は職員が決めている事が多いように見受けられる。	○	職員が決めるのではなく利用者さまと話し本人の好みに副えるように取組んでいきたい・

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り要望に副えるよう献立の時何を食べたいか、昔食べられた物等を聞きながら献立を考えている。利用者様にも色々な方が見えますのでその利用者様に出来ることを手伝っていただいたり一緒に買い物に行くように取り組んでいる。	○	まだ出来ていない利用者様もみえますのでこれからどのように職員と関われるかが課題である。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の望む物を出したいのですが病気、身体の事を考えると頻繁には出してさしあげれない状況です。時には楽しめるように努めている。煙草は他の利用者さんの迷惑がかからないように場所を確保している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者様の排泄パターンを把握し時間ごとにトイレ誘導に努めている。排尿チェック表をつけて利用者様の健康状態に気をつけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴ですが、利用者様が入浴されたいと言われればなるべく要望に副えるように努めている。ゆっくりと入れるようにせかさずご本人が「気持ち良かった」と言っていたできるように取り組んでいる。	○	入浴拒否の利用者様の対応にご家族様のご協力をお願いしていますが職員同士他に良い方法がないか検討中です。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝をしたり、食後一人でゆっくり出来る時間、入眠出来るようにしている。利用者様が夜眠れるように日中レク、散歩など活動し睡眠が出来るように努めている・夜間眠れない時は声かけして話を聞いたり、医師に相談したりして眠れるように支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様の出来ること、何を楽しみに生活をしているかを職員が把握してその人にできる事をしていただいたり、時には職員と二人で出かけたりして楽しい生活を送っていただくように支援している。	○	家族と離れて生活される利用者様に楽しいと思える生活が出来るように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物など一緒に行きますが、お金を所持して払っていただける利用者様は数少なく、理解に乏しい利用者様が多いので支援は難しいと考えている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ユニット毎に遠足、ランチ、ピクニックなど行事を立ててなるべく天気の良い日は屋外に出かけるように取り組んでいる。	○	一人で歩行が出来る利用者様が少ないので今後どのように対応するかが課題である。
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族様の協力を得てお墓参り、外泊などしていただいたり、個別で、神社へお参りに行ったり、オペラなど鑑賞に行ったりしている。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと言われれば公衆電話があるので掛けて話しをされている。外部から電話がかかってくればその都度利用者様に取次ぎをしている。手紙に関しては暑中見舞い、年賀状など書いて出すように努めている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の時間の規定（AM8:00～PM8:00）はありますがそれ以外でも電話を掛けてくださればいつでも気軽に訪問できるように努めている。職員の対応も笑顔で接するように取り組んでいる。		
<b>職員が</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が常にケアの中で無意識に身体束縛をしないように取り組んでいる。もし束縛が必要なときは、管理者、家族など相談するように決められている。	○	職員の中で良く理解できていない職員も見受けられるので勉強などして良いケアに努めていきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	出来れば鍵をかけないで生活していくのが良いのですが、一人で外出される利用者さまが見えますのでご家族様の了解を得て鍵をかけさせていただいてます。利用者様が外へ行かれる時は職員が同行するように取り組んでいます。	○	日中鍵をかけない生活をしていただきたいのですが精神的に不安定な利用者様が見えますのでご家族様と相談してよい方向にいけるよう努めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者様のプライバシーを配慮しながら見配り、気配りしながら見守るように努めています。夜間帯も巡回時はもちろん巡回時以外の時でも転倒などしないように見守りに努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	大切なものは名前を記入して保管場所に保管してある。危険な物品、道具（包丁、薬など）は使い終わったら必ず鍵をかけるように努めている。利用者様が使うときは必ず職員がついて怪我などしないように見守っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会や消防署の方に来ていただき講習を開いて職員が事故防止のために役立てるように取り組んでいる。避難訓練も随時行っている。	○	勉強会、講習は職員にとって大事なことですので半年置きぐらいに勉強会を行っていただきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に救命救急の指導を行っているが全職員が対応できるかどうか定かではない。	○	半年に1回～2回消防署の人に来ていただき心臓マッサージ、火災時の対応を忘れないようにしていきたい。全職員がすべてに対応できるように取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	3ヶ月毎に避難訓練を実施し利用者様をどのように誘導するか、避難場所は何処に移動するかなど職員同士話し合いながら訓練に努めている。マニュアルも各ユニットにおいてありいつでも見れるようにしてある。	○	まだ地域の方々の支援は得られてないような気がしますので協力が得られるように支援していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	抑圧感をなくすための生活には必ずリスクもついて回るので、ご家族面会時などに説明するように心がけている。ご家族も納得していただいているので積極的な活動をすることができる。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者様の顔色の具合、体調の変化など見逃さないように努め毎朝バイタル、熱などを測り利用者様の健康状態に変わりはないか見過ごさないように努めている。もし変化があった時は管理者、ご家族様に報告している。個別記録にも記載するように伝えてある。		
74	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の量、副作用について常に薬剤情報を見て理解するように努めている。症状の変化、薬の利き方などに疑問を持ったら医師、管理者に相談するように努めている。	○	薬剤情報を見て理解できれば良いのですが理解に悩むときもあるので薬の本もあったら良いと思う。
75	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	植物繊維、水分を多く取るようにしたり運動をするように支援している。便秘がちな利用者様にはヨーグルトを日々食べると共に医療機関と相談のうえ薬を飲んでいただき便秘の予防に取り組んでいる。排泄チェック表も記入している。	○	食べ物だけでなくどのように運動したら便秘がちな利用者様の排便が楽になるか 調べて取り入れたい。
76	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後必ず口腔ケアをするように努めている。自分で出来ない利用者様は職員が介助して口腔ケアに努めている。舌の汚れが気になる利用者様には舌のブラシで磨いて下さる様に支援している。夜間義歯の方も預かり一晩薬につけるように努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人食べる量、水分補給など把握するように努めている。ご自分で水分が上手く補給出来ない利用者様には干天、ゼリーなど誤嚥にならないように見守りながら摂っていただいている。食事摂取量も記入している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対するマニュアルファイルはある。感染症を持っている利用者様に対しての介護については、管理者、医療関係の方と相談し介助するように努めている。洗濯、食器類なども消毒し洗浄している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日使っている、まな板、布巾などは必ず毎日消毒液に一晚つけている。食器類は各棚ごとにおいてある陶器は消毒一覧表を作っているその日ごとの食器を洗ったり、冷蔵庫を掃除するように取り組んでいる。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者様と一緒に花壇に花を植えたり、掃除をしたりして家族、近隣の方々が気持ちよく出入りできるように努めている。利用者様が作られた作品、手芸なども飾っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の作品、（手芸、習字、刺し子）などが飾っており、遠足の写真、ランチでの写真などが飾ってある。利用者様の希望に合わせて工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に畳の椅子があったり、ベランダにはテーブル、椅子を置き日向ぼっこが出来るように工夫してある。気のあった利用者様同士の話し合いの場のソファの位置にも工夫するように努めている。	○	暖かい日、天気の良い日などは利用者様に声かけしてベランダで皆様と一緒に食事やお茶を楽しめるよう努めたい。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	各居室には使いなれたタンス、ベッドなどを使用 していただいたりご自分で作られた物を飾られたり して心地よく過ごせるように取り組んでいるが 転倒、怪我など注意が必要な利用者様に対しては 最小限にさせていただくように努めている。	○	若い頃の写真、アルバムなどがあると色々思い出 して話してくださったり、本人の回想できると思 う。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	掃除の時は必ず窓を開け空気の入替えをしてい る。臭いに対しては芳香剤を使ったりしている。 外気と余り温度の差がないように注意している。 廊下とホールの間でも温度差がないように努めて いる。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	個々の身体機能に適しているかは分からないがバ リアフリーにし車椅子、歩行が上手くない利用者 様に使いやすくなっている。安全面でも転倒、足 の歩行運動など自立に向けての工夫はされてい る。		
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	その人の能力に合わせた介助、援助するよう に努めたい。混乱、失敗した時はゆっくり話 しをし自分で出来る喜びを感じていただけ るよう努めたい。	○	まだ未熟なので何が分かるか、分からないかよく 観察していきたい。車椅子の利用者様、足の歩 行が上手くない利用者様にも何か出来ることは ないか考え色々手伝っていただけるよう取 組んでいきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	バーベキューをしたり、天気が良く暖かい日は ベランダで昼食など楽しく活用できるように取 組んでいる。	○	毎日が楽しく生活できるよう色々な活動に取 組んでいきたい。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々散歩に出かけ季節の移り変わりを肌で感じる。

体操やレクを通して脳の活性化を図る。

外出することで楽しみを見出す。

できることは自分でする

グループホームでもいいか!と思う心が“生きてるってすてき”とつながるようにしていきたい